



第86回 中央委員会 第27期後半期・特別報告

付加価値の『WIN-WIN最適循環運動』 総括



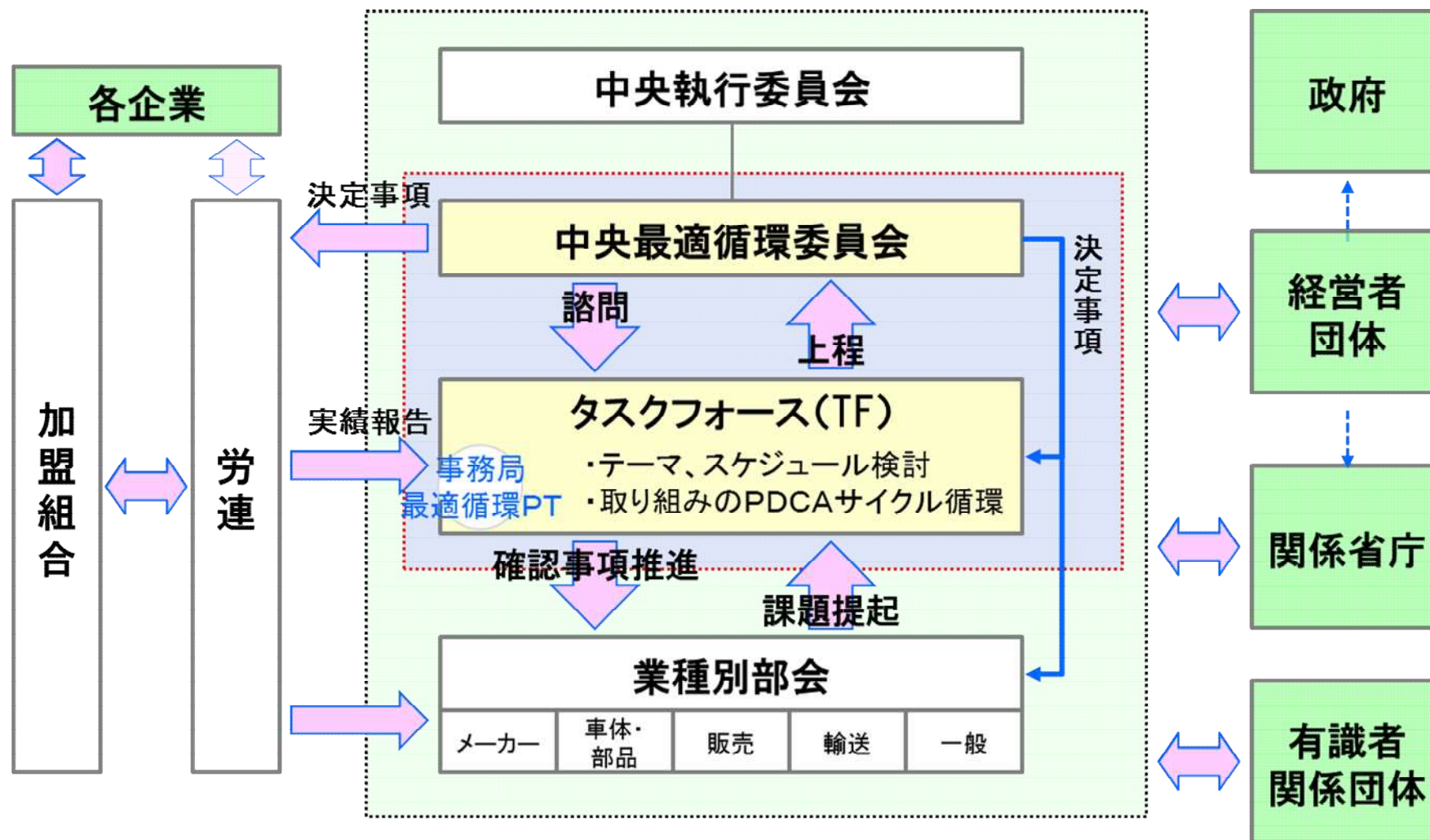
2019年1月10日
パシフィコ横浜

付加価値の『WIN-WIN最適循環運動』の目指す姿

自動車産業の競争力を、企業規模の大小に関わらず職場段階から高め、
付加価値を産業のバリューチェーンに循環させる『最適循環運動』を2016年1月にキックオフ



3年間の集中した活動としてスタートし、2018年12月で3年を迎えた



自動車総連、労連それぞれに新たな枠組みを立ち上げ

テーマ			
大項目		中項目	
A	産業内の適正取引の推進	1	下請法・自動車産業適正取引ガイドラインの周知徹底
		2	適正運賃の収受に向けた取り組み
B	生産性・付加価値の向上	1	「スマートものづくり応援隊」の活用
		2	「ベストプラクティス（好事例）」の集約・展開
		3	カレンダーの統一に向けた検討
		4	商習慣の改善（過度な値引き販売・自社登録などの解消）
		5	月間・年間における繁閑差の解消
		6	メーカー系列内外の協力強化による人的相互支援の実施
		7	車輛輸送に関する制度課題への取り組み推進
C	人材確保に向けた産業の魅力向上	1	ものづくり産業の魅力向上
		2	販売会社の魅力向上
		3	ドライバーの魅力向上
D	地域における協力強化	1	地域におけるモータープールの共有化・共同輸送による効率化
		2	地域における育児・介護と仕事の両立支援と地域貢献

業種別部会を中心に議論し、14テーマを設定

各種労使会議にて運動に関する意見交換を実施



自販連



自工会



陸送協会



部工会



大型4社

各種労使会議にて課題感の共有や、お互いの取り組みの確認を実施

自動車産業に関わる諸団体の取り組みを一堂に発信する場として開催

	第1回	第2回
日時	2016年9月29日(木)	2017年7月18日(火)
場所	ANAインターコンチネンタルホテル東京	ANAインターコンチネンタルホテル東京
基調講演	「自動車産業を巡る課題と対応」 経産省 粕谷 製造産業局長	①「自動車産業を巡る課題と対応」 経産省 多田 製造産業局長 ②「トラックドライバー、自動車整備士不足への対応」 国交省 奥田 自動車局長
パネルディスカッション	自動車産業全体の底上げと産業内連携の強化に向けて ■日本自動車工業会 ■日本自動車部品工業会 ■日本自動車販売協会連合会 ■日本陸送協会 ■日本生産性本部 ■経済産業省 ■自動車総連	自動車産業全体の底上げと産業内連携の強化に向けて ■日本自動車工業会 ■日本自動車部品工業会 ■日本自動車販売協会連合会 ■日本陸送協会 ■日本生産性本部 ■経済産業省 ■国土交通省 ■自動車総連 

運動の推進に向け、参加者全員で意思結集を図った

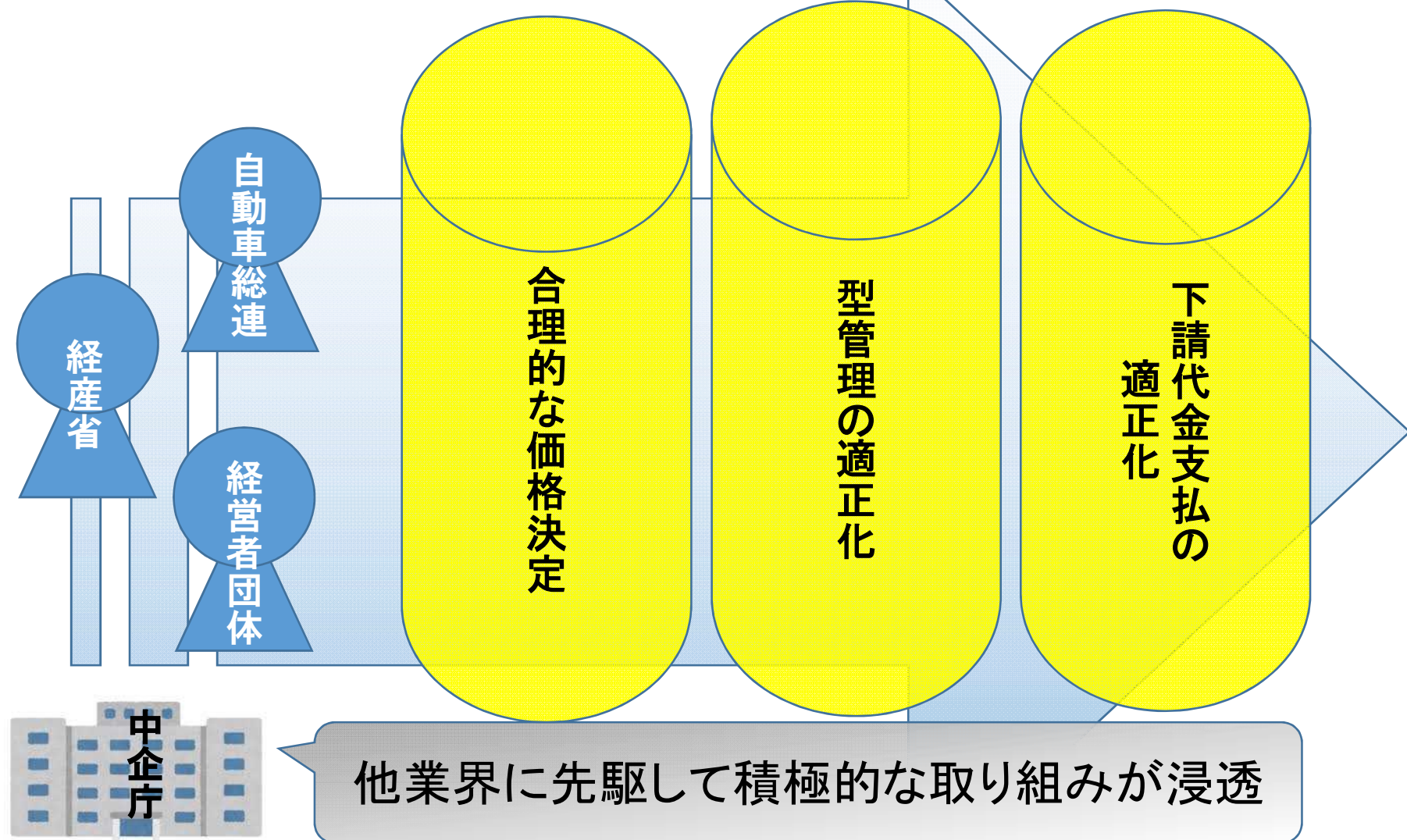
「自動車産業適正取引ガイドライン」「付加価値向上に向けた行政支援策・ベストプラクティス」などの国の施策の周知や労連の取り組みの横展開を図るセミナーを開催

	第1回	第2回
日時	2017年7月5日(水)	2018年4月9日
場所	View-Well Square	View-Well Square
テーマ	①下請法等中小企業の取引条件改善への取り組みと自動車産業適正取引ガイドラインについて ②中小企業等経営強化法を中心とした生産性向上支援策について	①付加価値の『WIN-WIN最適循環運動』自動車総連の取り組みについて ②「自動車産業適正取引ガイドライン」について ③下請等中小企業の取引条件改善への取り組みについて ④平成30年度における中小企業支援策 ⑤自動車整備士不足への対応 ⑥トラック輸送部門における取り組みについて ⑦労連の取り組み紹介



テーマ			
大項目		中項目	
A	産業内の適正取引の推進	1	下請法・自動車産業適正取引ガイドラインの周知徹底
		2	適正運賃の収受に向けた取り組み
B	生産性・付加価値の向上	1	「スマートものづくり応援隊」の活用
		2	「ベストプラクティス(好事例)」の集約・展開
		3	カレンダーの統一に向けた検討
		4	商習慣の改善(過度な値引き販売・自社登録などの解消)
		5	月間・年間における繁閑差の解消
		6	メーカー系列内外の協力強化による人的相互支援の実施
		7	車輛輸送に関する制度課題への取り組み推進
C	人材確保に向けた産業の魅力向上	1	ものづくり産業の魅力向上
		2	販売会社の魅力向上
		3	ドライバーの魅力向上
D	地域における協力強化	1	地域におけるモータープールの共有化・共同輸送による効率化
		2	地域における育児・介護と仕事の両立支援と地域貢献

経産省指示により策定された自工会・部工会自主行動計画の推進に向け、個社労使での意見交換や、セミナーの開催、産業労使会議における取り組みの確認等を実施

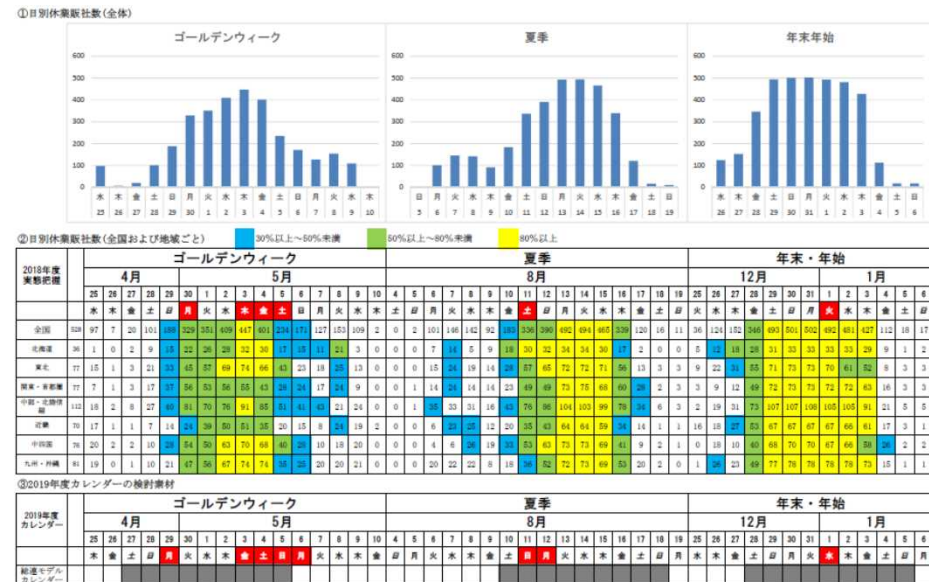


政労使が同じベクトルに向かい強力に推進し、明確な前進を図った

【具体的取り組み】 自動車総連加盟単組における 長期連休実態を調査

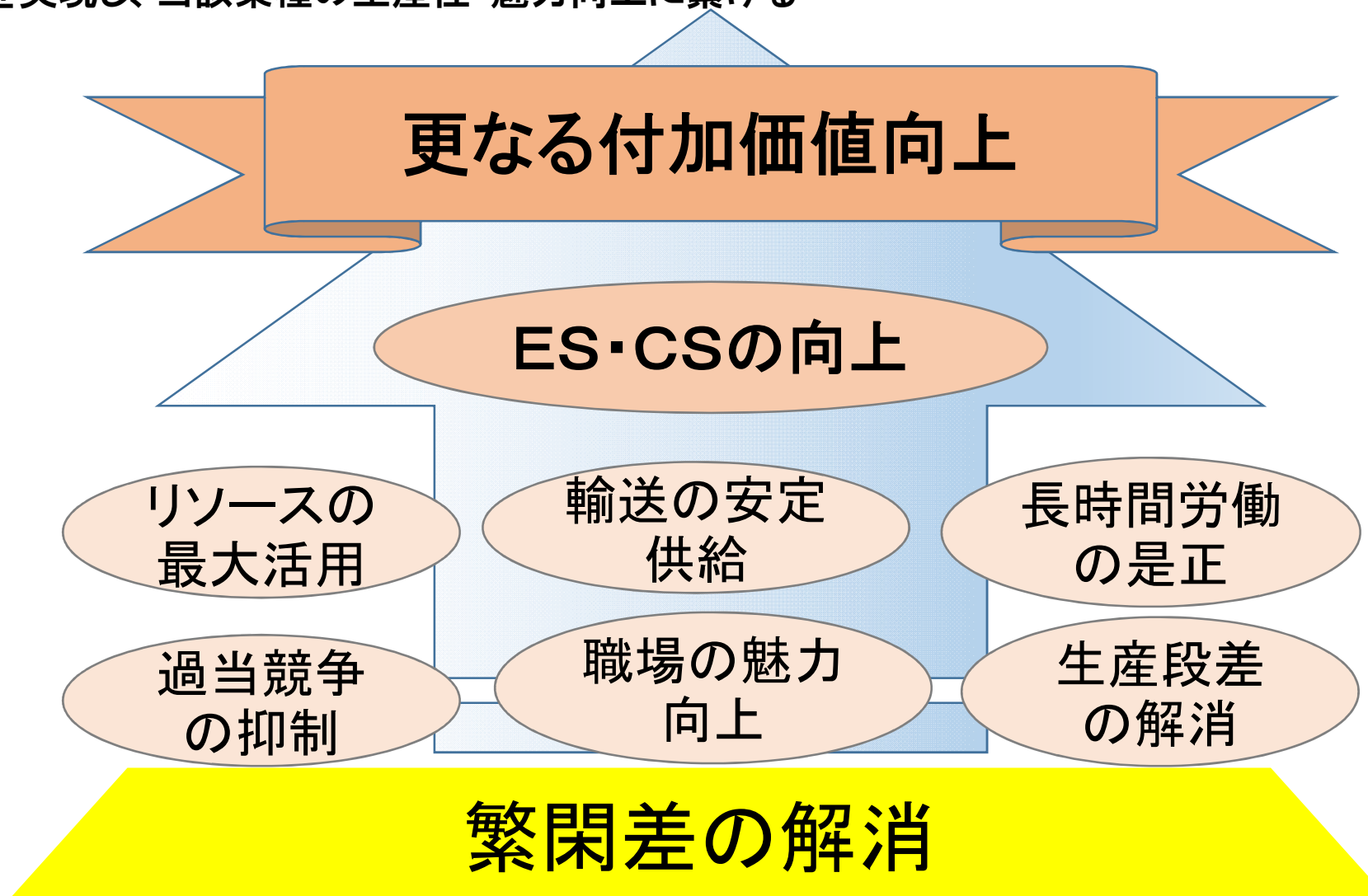
GWについては分散傾向だが、
夏季及び年末年始は多くの販
社が休業

自動車総連販売部門として、三大連休のコア日設定や連休日数確保
に向けた取り組みを推進



- 自動車総連モデルカレンダーを基本とする
- 販売部門としての重点取り組み休業日(コア日)を設定する
- 各労連が主体的に取り組みゾーンを設定して労働諸条件改善及びカレンダー協議の方針に明記して取り組みを推進する

繁閑差を解消することで、サービス職及びドライバー職における健全で秩序ある働き方を実現し、当該業種の生産性・魅力向上に繋げる



繁閑差の解消により生産・輸送・販売の生産性向上及び働き方改善を図る

【労連・単組の取り組み】

繁閑差の実態を会社側と共有し、意見交換を実施

◆ 繁閑差の要因として想定されるものについて議論



繁閑差を踏まえた事業運営の可能性を検討

業界全体の生産性・付加価値の向上に向け取り組みを実施

【自動車総連の要望】

キャリアカーからのオーバーハング状態を認可する

積載効率の向上に繋がる



ドライバーの長時間労働の是正
道路への負担軽減
CO2の排出削減

関係団体や顧問議員と連携し関係省庁への要請活動を実施

実証
実験

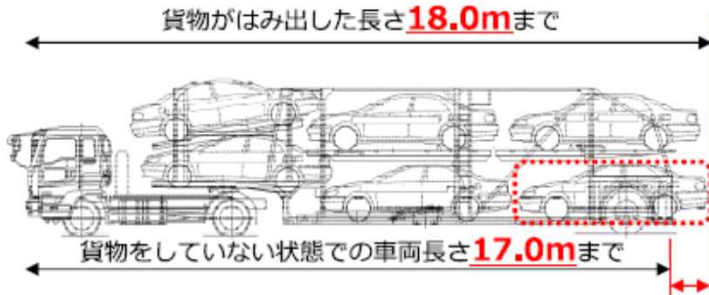
審議会

パブコメ

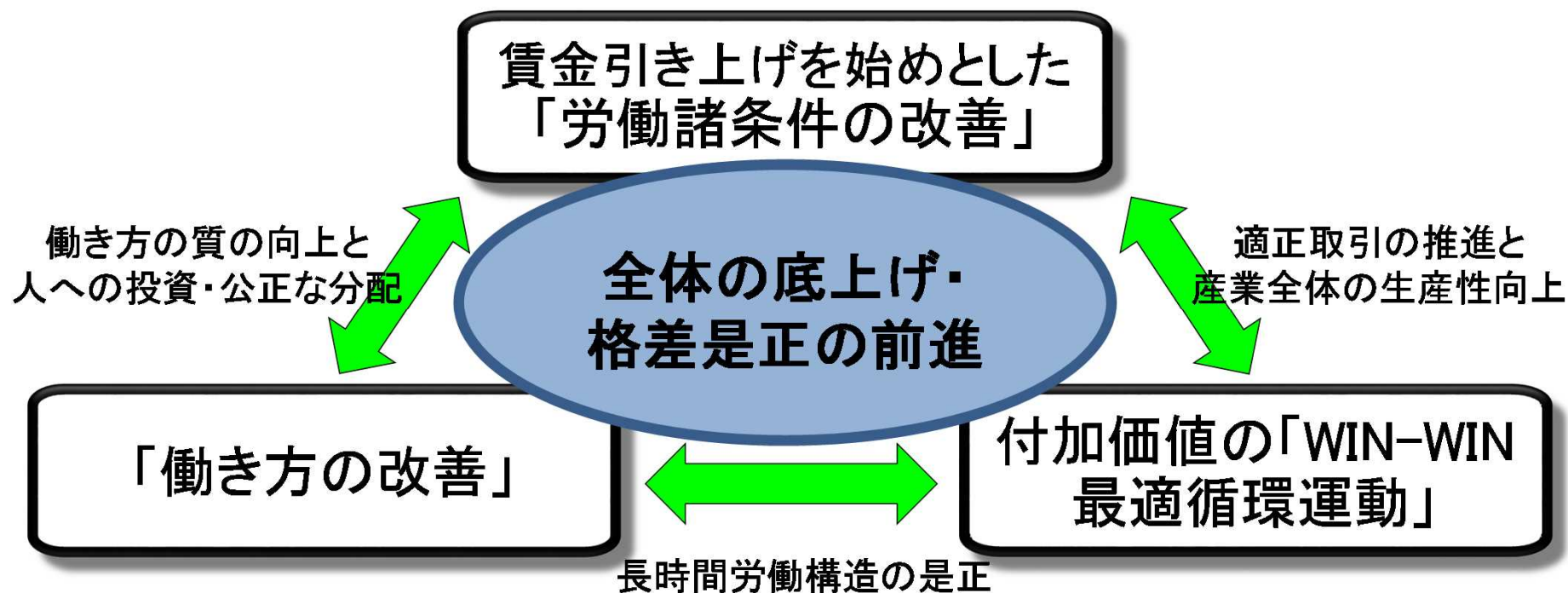
自動車運搬用車両に関する長さ規定が緩和



国交省審議会

現行の規定	【新設】自動車運搬用車両の規定（案）
 連結全長 18.0m まで ※リアオーバーハングとは (後軸の旋回中心から車両後端まで) 特例8車種のセミトレーラ連結車 17m 被けん引車のリアオーバーハングが 3.2mから3.8mまでの車両にあつては17.5m 3.8mから4.2mまでの車両にあつては18m ※特例8車種 ①パン型、②タンク型、③幌枠型、④コンテナ用 ⑤自動車運搬用、⑥あおり型、⑦スタンション型、⑧船底型	 貨物のはみ出し長さ 18.0m まで 貨物をしていない状態での車両長さ 17.0m まで はみ出し長さが1.0mまで 貨物が積載されない車両の長さ 17m なお、貨物のはみ出し長さが1.0mまで可とする (貨物のはみ出しを含めた車両長さは18mまで)

通達により、1月下旬以降認可される見通し



付加価値の『WIN-WIN最適循環運動』を柱の一つに据え、
中堅・中小単組の交渉環境を整備

自動車総連全体の底上げ・格差是正も一定程度前進

“真の意味での構造転換”を進める下地となった

●人材育成に向けたセミナーの開催



●「最適循環運動アクションプラン」の策定

全いすゞ労連 第28期(後) WIN-WIN 最適循環運動アクションプランシート

活動区分	Ⅲ	大項目	具体的活動方針	中項目	1. 労使協議の充実・グループ政策・産業政策									
中項目		4)	産業の底上げ・底支えを図る取り組み											
活動目標			・第28期に設置した自動車総連内の推進体制であるタスクフォースと中央最適循環委員会と全いすゞ労連の最適循環委員会と連携した取り組みを進める。 ・各部門労使懇談会等との意見交換の場において前進・加速を図る。 ・自動車総連全体テーマに対する全いすゞ労連の取り組み内容と全いすゞ労連独自テーマの取り組み内容を各部門内で共有するとともに、好事例を共有・展開する。 ・付加価値の「WIN-WIN最適循環運動」は2016年～2018年の3年間の取り組みであることから、2019年以降の取り組みのあり方について第28期後半期で議論する。併せて2018年中に運動の総括についても行う。											
期間			9月～11月		12月～3月			4月～8月						
具体的活動内容			・4項目14テーマの自動車総連全体テーマを先行して推進を図る分組①については、最適循環運動委員会での議論を重ね、具体策を展開していく。 ・分組②については、各部門別での議論をベースに各テーマに関係する部門で議論を深め、業種横断的な対応が必要な項目については、共有を図っていく。併せて各企業との合意形成を図る。											
活動計画 (修正計画)			9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
			○41 中央最適委員会 委員会	○42 中央最適委員会 労使懇談会	○43 中央最適委員会 委員会	○44 中央最適委員会 委員会	○45 中央最適委員会 ○46 中央最適委員会 労使懇談会	○47 中央最適委員会 48 JAWA 労連 最適循環セクター		○49 中央最適委員会 推進委員会		○50 中央最適委員会 JAWA 労連 フォーラム		
今後の取り組み・課題			分組①については、各種労使協議を契機に更なる推進を図る。 分組②については、各部門での議論を深め、具体的取り組みに繋げる。 ・生産/輸送・物流部門の労使意見交換会「あり方委員会」に基づき具体的な取り組みに繋げ労使で共有を図る。					分組①については、販売部門の「日曜営業見直し」を中心に、業種横断的なテーマとして各部門において課題を整理する。 分組②については、好事例を展開することに加え、業種横断テーマを各部門の取り組みに落とし込む。 ⇒「日曜営業見直し」の労連方針を策定する。 ⇒労使懇談会にて議論スタート						

全いすゞ労連の取り組み

運動方針

『全いすゞ労連最適循環運動アクションプラン』策定について

・「自動車産業全体の底上げ」として活動してきた「WIN-WIN 最適循環運動」をいすゞグループ全体の取り組みとするために、業種横断的なテーマをより明確にしていこう。そのためには「全いすゞ労連最適循環運動アクションプラン」(新規)を策定して後半期1年間で取り組みの強化を図る。

第28期(後半期) アクションプラン (生産/輸送・物流部門抜粋)

9月～11月	各部門での議論を深め、具体的取り組みに繋げる	ブロックメンバーがより有益な情報を得られるために活発・主体的な意見交換が出来、活性化された会議体とするため、あり方委員会を設置。
12月～3月	生産/輸送・物流部門の労使意見交換会「あり方委員会」を基に取り組みの推進を図る。	各単組が挙げる懸念事項について労使で課題認識の共有を図る。 ①労働力人口不足について ②法改正(時間外労働規制)について ③需要動向について
4月～8月	活動の総括および今後の活動のあり方を決定する。	各テーマを引き続き推進する。 課題解決に向けて取り組みを推進する。

各労連における個別課題に応じ、独自テーマを推進

運動の波及

- 自動車産業の取り組みが先鞭となり、他産業、他業種でも多くの自主行動計画が策定
- 中堅・中小企業の底上げ、付加価値の循環を求める動きが労働界全体へ波及



産業の枠を超えた大きなうねりを創出

自動車総連全体テーマ

- 下請法・自動車産業適正取引ガイドラインの周知徹底、トラックのオーバーハング状態認可に向けた道筋など、それぞれのテーマにおいて明確な前進
- 総合生活改善の取り組みにおいても、中堅・中小単組を中心に、自動車産業の魅力向上に一定程度寄与

労連の取り組み

- 独自テーマの推進や、経営者への働きかけ、労連の枠を超えた連携など、主体的に運動を推進し、運動全体を推し進めた

CASE、IoTの進展等厳しさを増す環境



付加価値を循環させる運動はこれまで以上に求められる

業種を跨いだ取り組みのスキームや動の精神を継承し、
新たなステージで取り組みを継続する

名称		「付加価値の『WIN-WIN最適循環運動』」 を継続
体制	自動車総連	中央最適循環委員会、最適循環TFは解消自動車総連本部内のPTは継続し、業種政策局に担当部長を置く
	労連	各労連の状況に応じ検討
テーマ毎の推進		各部会を中心に具体的取り組みを議論
その他		28期以降の在り方については、方針策定時に決定



自動車総連

